

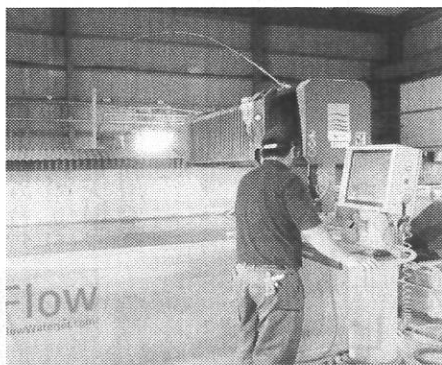
難削材の加工能力増強

葵工機、WJ加工機増設

【岐阜】葵工機（岐阜県坂祝町、納土総社長、0574・25・7089）は、ウオータージェット（WJ）加工機（写真）を1台増設し、炭素繊維強化プラスチック（CFRP）など難削材の加工

能力を増強する。稼働は7月初旬の予定。付帯設備を含め投資額は約4500万円。これでWJ加工機を2台体制とし、自動車部品や専用機部品の試作品の受注増に対応する。WJ部門で2017

年8月期に15年8月期見込み比25%増の売上高3000万円を目指す。導入するWJ加工機は現有機と同じ、米フロート製。有効加工エリアは2500ミリ×1300ミリ。最大圧力は412メガ



水ジェット加工機でチタンやガラス、CFRPなど難削材の切断

業とし、新規開拓に力を

加工に使う。厚さ10ミリのアルミニウムを100ミリの角に2分程度の短時間で切断できる。9月をめどにWJ部門の人員を1人増の4人とする。WJ加工を熟知する技術者1人を専任営業とし、新規開拓に力を入れる。同社は航空機部品などの熱処理後の歪みを取る板金加工が主力。10年からWJ加工に乗り出し「加工データの作成、加工条件のノウハウも蓄積しており、条件により9割100割の高精度加工に対応できる」（納土社長）のが強み。複雑形状品への対応力も評価され、難度の高い試作品の受注を伸ばしている。